

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200027		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム増尾		
所在地	千葉県柏市増尾749		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナによる閉鎖的な生活もあり外出や面会制限などがありながらも状況を見ながら外出や散歩など少しでも利用者さんの意思に添えるような環境づくりを行っている。今後も屋内はもとより屋外活動などにも参加を行っていき地域の皆様やご家族様・利用者様に対して尊厳のある生活が送れるようお手伝いが行えればと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者それぞれが自分らしく心にゆとりのある生活を送れるよう、管理者・職員とで支援に努めている。できることは自分で行う生活リハビリを取り入れ、自立の支援をしている。新型コロナウイルス感染予防のため、外出や面会を制限している現状だが、利用者の身体機能が低下しないよう、近隣の散歩や空いている時間での買い物は継続している。また外食も中止しているが、デリバリーを利用して楽しみ、利用者を元気にする工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義作成を行い共有しているが実践を行える状況に限界があった。	申し送り時に法人理念の唱和をおこない、全職員が暗記している。短い言葉でわかりやすいホームとしての理念を、管理者と職員とで作る取り組みを始めている。	法人理念を活かしたホームとしてのわかりやすい理念ができ、職員の意識が高まることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流制限があり地域の方も遠慮されることが多かった。	町内会に加入し、回覧板で地域の状況を把握している。現在は感染予防で地域の祭りのみこしや、小学校との交流もできない状況である。介護相談員の来訪、ボランティアの受け入れも休止している。	感染状況を考慮しつつ、地域との関わりを再開していく検討を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流制限があり地域の方も遠慮されることが多かった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	紙面上において報告を行ったが話し合いの場までは設けることが行えなかった。	運営推進会議を書面開催として、民生委員、町内会、会長、地域包括支援センターに郵送している。	開催通知を出す際に意見を募り、議事録に反映して、双方向での会議とされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールによる連絡などは行っており協力体制は築いている。必要であれば電話での相談も行っている。	行政の担当課に困難事例について相談したり、感染対策についての連絡をメールや電話でおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないケアを日々行っている。	身体拘束をしないケアを職員間で共有している。「身体拘束等の排除の理念及び方針」や「身体拘束ゼロへの手引き」が備えられている。	委員会・研修の設置を位置付け、開催予定を明示するとさらに良いと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で認識しながら業務に従事している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に制度を活用されている人がいるので活用支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時などは十分に連絡を取り合い納得した上で行っている。また解約後の施設・病院などの紹介も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の意向を踏まえ取り入れていけることは行っている。	面会や状況報告の電話の時に、家族の意見を聞いている。エアコン、ベッドの交換など、家族の要望に対応した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員より意見を聞き取り入れている。	法人が年2回、職員にアンケート調査をして、意見を聞いている。必要に応じて管理者に法人から伝達がある。連絡帳で管理者と職員が意見交換・情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格者や勤務状況を踏まえ整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加など業務向上につながるような環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協会などへの参加を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い本人様の取り組みたいところとグループホーム内において行えることを考え実現可能なものは本人様の意思に基づいて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じように入居前より要望に耳を傾け関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居対象か在宅において行うサービスがあるのかを見極めたうえで入居対象となった場合は医療サービスの必要性なども考え対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常動作など本人様の取り組めることは行って頂く環境づくりを目指し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡や面会などにより状況に応じてはご家族のご協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出(コロナ禍の状況以外では)などによりお墓参りや馴染みの場所・面会など支援に努めている。	事前連絡のもと、感染対策をした上で、家族と彼岸の墓参りや、自宅宿泊してもらっている。電話の取次ぎ、年賀状の返信の支援などもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に1人になる状況も必要(本人様が求める場合)以外は利用者様同士が支えあえる環境づくりを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院時や他の施設の入居時も本人様・ご家族様の相談を行うなど支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき本人様本位になるよう努めている。	入居前に家族から生活歴を聞き、アセスメントに反映している。日々の関わりの中で、できること・望んでいることを、声かけや表情などで確認している。無理強いせず、思いをくみ上げる工夫をおこなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の日常会話の中から本人さんにとって理想のサービスが何かを考え把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様たちの状況把握に努め無理せず生活が送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム内において実現可能なことは取り入れながら心身の状況を踏まえ現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画はケアマネジャーが作成している。見直しは半年に1回、急変時には随時おこなっている。職員は日々のかかわりの中で、「一度、自宅に帰りたい」との希望を聞き、家族と相談して実現した例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月ごとに目標設定を行い見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のグループホーム内での生活の中で必要としていることを見極め取り入れられることは柔軟に取り入れている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においての地域資源の活用には限りがあるものの豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて往診医だけではなく他科受診として専門医への受診を行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に訪問看護員とのかかわりを持ち情報提供を行い適切な受診や看護を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に関係を持っており情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはご家族様と確認を行い当事業所の取り組めることの確認を行い、特養への転居など関係を築いている。	看取りはおこなっていない。急変・救急時や終末期の「延命処置等に関する要望書」を作成しており、契約時に家族へ説明をしている。ADL低下などでホームでの生活が難しくなった場合は、家族と相談し、病院や特養に移ってもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染に対する対策・対応に最近では集中して訓練を行っていたが事故発生時の対応などは確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や救急セットの場所確認などを職員で行っているものの地域とのかかわりについてはコロナ禍においては難しい状況となった。	災害対策マニュアルを作成しており、夜間想定での避難訓練をおこなっている。食料品、飲料水は3日分、カセットコンロなども用意している。備品リストの作成もしている。母体法人に依頼して非常用電源の配備を進めている。	近くに河川があるため、水害訓練もおこなうとさらに良い。消防、近隣住民との連携体制の維持・強化、ホームとしての事業継続計画(BCP)作成も期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が自覚をして行っている。	全職員が利用者の尊厳を大切にしている。声かけ時は家族に確認し、馴染みのある呼び方をしている。気になる声かけがあった場合は、管理者と職員とで話し合いをしている。個人情報の管理は、パソコンにはパスワードをかけ、書類は鍵のかかる事務所で保管している。	利用者支援の質向上のため、これまでは集合での会議、研修をおこなっていた。現在はコロナ禍で開催が難しい状況だが、できることから再開する工夫が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様を尊重することを心掛け本人様の思いや取り組めることのバランスを図りながら環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況にもよりますが(危険回避)出来るだけ利用者様個々に合わせて上げられるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容など本人様の意向をふまえるなど支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好などを聞きながら楽しみなものになるよう心掛け食器洗いなど本人様たちが行えるよう職員と共にやっている。ただし入居者全員ではなく本人様達の意思に任せている。	配食を利用し、栄養バランスの取れた食事を提供している。コロナ禍で外食が難しいため、寿司などの出前を取って普段と違う食事を楽しんでいる。食器類の片付けは、職員の見守りのもと、利用者が率先しておこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考えられた食事を行いながらも無理やりではなく声掛けを行い食事・水分を摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは本人様任せだけではなく仕上げをするなど日々取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導などを行い、排泄リズムを持てるようにしている。またズボンの上げ下げなどは行って頂けるよう声掛けのみで対応することもあり。	全職員が、排せつチェック表や連絡帳を共有している。利用者の自尊心に配慮しながら、無理強いせずに声かけをおこなっている。失禁時の対応にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時に内服薬だけでなく自然な排泄が行えるような飲料の取入れを行い本人様が出来るだけスムーズな排便が行えるよう努めている。体操など運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間なども事故のない程度に入浴していただくこともあり出来るだけ本人様の入りたいときに入浴して頂けるよう努めている。	基本は同性介助とし、週2～3回位の入浴支援をしている。希望により、安全に配慮しながら、夜間対応もおこなっている。入りたがらない利用者には清拭対応、日時や職員を変える対応をしている。好みのシャンプーを使用したり、ゆず湯で季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼でも本人様の意向や生活習慣を把握し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で確認し服薬支援をしている。また訪問介護員や医師とも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての利用者様に実現可能とまではいかないまでもグループホームにおいて取り組める範囲内で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ後は面会や外出なども取り入れご家族様の協力も得ながら支援している。	天気の良い日は、日光浴や散歩に行き、地域住民とあいさつをしている。家族の同意を得て、3人位ずつ車で、コンビニ、ドラッグストア、スーパーへ買い物にしている。車でドライブをしながら花見に行く予定もある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あらかじめご家族様と相談しながらなくても構わない額の金銭を所持していただき許可をいただいた場合には買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持を認めており自由にやり取りしていただいている。また施設の電話の使用も許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけなどに対しては安全の確保が行える範囲内での季節の物を取り入れ出来るだけ利用者様に心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	共用の空間は清潔で整理整頓されている。利用者と職員と一緒に作った、季節を感じる掲示物が飾ってあった。和室やソファがあり、利用者同士が会話しながらくつろぐ様子が見られた。時間を決めて、職員が換気をおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室においていつでも戻れ一人になれるような環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要時には居室にはいる範囲内において居心地の良い空間づくりに努めています。	居室には、仏壇や馴染みの家具があり、自宅にいた時と同じように過ごせる空間作りをしている。自宅から持ってきた花などは居室から見える場所に置いている。職員が毎日掃除をするが、できる人は自分でほうきをかけている。居室は整理整頓されていて、換気もおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と危険は紙一重となるものの本人様が出来るだけ行えることを続けていただけるよう工夫している。		

【評価機関】